



著者プロフィール

大石 悦子（おおいし・えつこ）

昭和13年、京都府舞鶴市生まれ。

昭和29年、作句開始。「鶴」人会。

石田波郷、石塚友二、星野麥li人に師事。

昭和55年度「鶴」俳句賞受賞。第30回角川俳句賞受賞。

句集に「群萌」（第10回俳人協会新人賞受賞）「聞香」「百花」

「耶々」（第5回俳句四季大賞受賞）。

俳人協会評議員、11本文藝家協会会興、「鶴」「紫薇」同人。

〈句集『有情』より転載〉〈2012年12月25日時点〉

『有情』

（自選15句）

大石 悦子

初渚夢に踏みたるどころまで
読初よみはつのきても出でます恵比須紙
歌かるた歳とつてからわかること
春の山とは父もぬき母もぬき
千年を咲き千年の落椿
花屑はなくずを掃く雑僧ざつそうのあひ寄りぬ
菖蒲酒あやぶし学まなびしことの芳しく
雨の日は雨の橋の花を見て
今生こんじやうに白眉はくびいたなく涼しさよ
立つたまま死しにたし色鳥いろどりあまた撒まき
ぎんなんを夫と酒房しゆぼうでさういふ日
どこで遇あつた鱈たらだつたか雁かり来き紅べに
みぞれ鍋なべ時とき彦ひこ先生せんせいなつかしき
寒林かんりんの橋はし様さまとなりて鳥呼とりよびむ
綿虫わたむしと息合いきあひて世よに後あとれけり